総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

優良事業事例団体

団体名：松野町

■人口　：3，728人（令和4年2月）
■面積　：98.45平方キロメートル
■主な産業　：農林業
■地域情報化アドバイザー名　：髙橋　邦夫　氏
■派遣対応年度　：令和元、2年度
■派遣回数　：4回
■支援形態　：講演会の開催、個別アドバイス
■支援分野　：働き方、ネットワークインフラ
　テレワーク、自治体クラウド

新庁舎及び防災拠点施設
令和4年2月供用開始
BELS認証取得（Nearly ZEB）

優良事業概要

■事　業　名：新庁舎ネットワーク構築及びICT利活用事業
■事業の概要：
　新庁舎建設を契機として、ネットワーク仮想化技術による端末の集約及び庁舎等無線環境の構築、テレワーク・ペーパーレス会議等に向けた環境整備等、ハード・ソフトの両面にわたり働きやすい環境整備を行うことで、職員の負担軽減と魅力ある職場づくりに努めるとともに、各種町民サービスの向上を図るものである。
■アドバイザーへの依頼内容：
・無線LANの導入をはじめとする新庁舎ネットワーク構築に向けた助言
・ICTを活用した業務効率化に対する助言
・働き方改革への取組に関する講演

地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

■支援を受けた内容：

　令和元年度は、働き方改革への取組に対する意識改革と手法を探るため、「新庁舎を契機とした働き方改革」と題し、改革の意義とその必要性、事業遂行への留意事項等について、豊島区や他団体の取組事例を交え、講演いただいた。また、個別アドバイスとして、働き方・効率化に資するネットワーク構成として、4層分離による構成方法について、助言いただいた。

令和元年度事業　講演会の様子

令和2年度事業　個別アドバイスの様子

　令和２年度については、システム及びネットワーク構成（案）の作成に向けて、助言いただき、主な助言内容は、次のとおりであった。
・4層分離に対するセキュリティ面等への助言
・4層目（業務系）の運用方法（Web会議等）
・テレワーク環境構築に向けた接続・運用方法
・各NW系統の定義付けとファイル受渡方法
・IP電話による出先機関の集約と活用方法

支援を受けた事業の最新状況

新庁舎での業務開始から1か月余りが経過し、システム本稼働後の現状は、概ね次のとおりである。

■職員個々に、ノートPC・モニター1台を配布し、デュアル構成での運用

■ネットワーク仮想化による効率化

→端末の集約（有線接続時：全系統利用可能、無線接続時：利用事務系以外へアクセス可能）

→プリンターと複合機の集約（全系統の印刷物がどこからでも出力可能）

■無線環境構築によるペーパーレス会議の推進　→　無線化対象施設：新庁舎をはじめ出先3施設

■職員端末からWeb会議が可能

■テレワーク環境構築により、庁舎外からシステム利用が可能

■庁内文書の電子決裁化

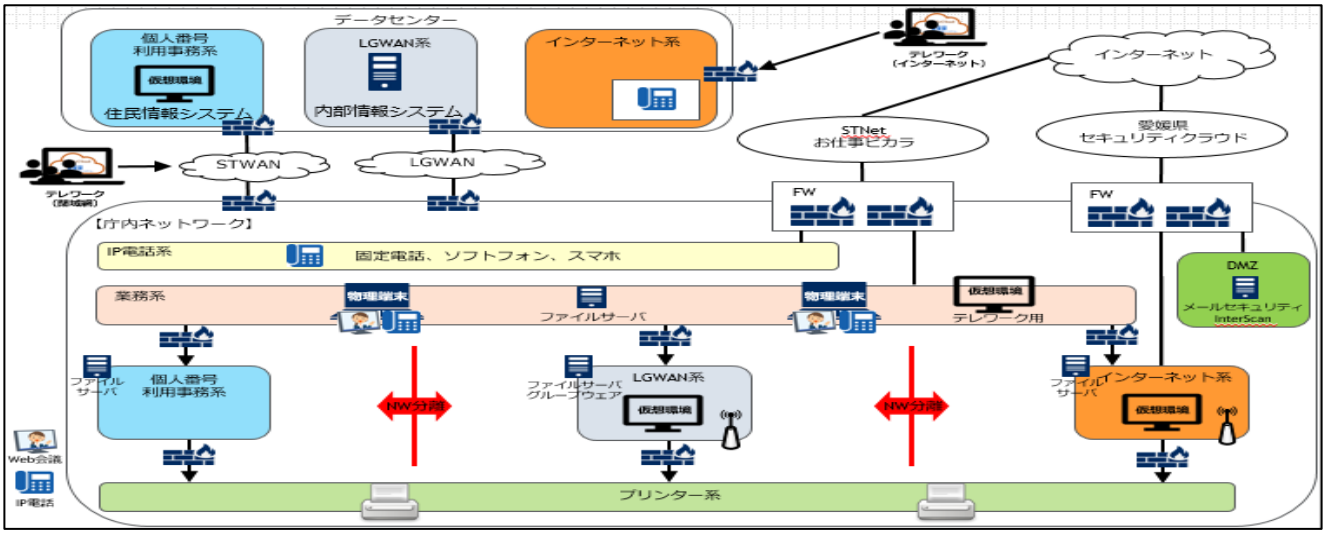
→出退勤管理等の申請について、一部電子化を実施

→文書の収受・起案等については、次年度以降運用方法等を確立する予定

■クラウドPBXによるIP電話化　→　ソフトフォンへ移行し、庁舎外からでも内線通話が可能

■ICカードを活用した認証手法

→職員証を二要素認証、出退勤打刻、プリント認証、電子キーとして活用



地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■現在の庁舎建設室長が、自治体総合フェアのセミナーに参加した際、講師であった髙橋氏から、当制度の紹介を受けました。

地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■評価・感想　：

新庁舎への移転に併せて、システム更新及び庁内インフラの構築を実施する必要があり、これまでの業務の見直しや働き方改革を推進する絶好の機会でした。しかしながら、小規模自治体である本町では、職員が複数の業務を兼務しているなど、人員と専門知識が不足しており、他自治体の事例やICT利活用等についての知見を有する専門家の支援が必要となっていました。そんな中、当制度を活用し髙橋氏に懇切丁寧に御指導・助言いただくことで、本町としては前例のない働き方・効率化の図れる、また、全国でも数少ないネットワーク構成を構築することができ、大変感謝しているところです。

現在においては、システム更新後の調整等多事多端な日々ですが、今後も、当制度を積極的に活用させていただき、多様な分野で本町ならではの魅力発信に繋げていきたいと考えています。